

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 11 月 29 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	楊木 萌

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
沖縄県西表島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
西表島実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 11 月 11 日 ~ 平成 29 年 11 月 15 日 (5 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
琉球大学副学長さま、琉球大学熱帯生物圏研究センターの皆さま、西表研究施設の皆さま
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
【日程】 11 月 11 日：西表島入島 11 月 12 日：マングローブ林散策，リバーカヤック，浦内側クルーズ 11 月 13 日：サンゴ礁に関する講義，シュノーケリング 11 月 14 日：イリオモテヤマネコに関する講義，演習（カメラトラップ，糞内容物観察）・西表野生生物保護センター見学 11 月 15 日：離島
今回の実習では、西表島の生態系を学び亜熱帯地域に関する理解を深めることを目的として行われた。気候は残念ながら終始すぐれず、雨に濡れながらの活動となることもしばしばあったが、雨の多い亜熱帯気候を身体で体感することができた。また雨のおかげか両生類を始めとした野生動物も多く観察でき、充実した時間を過ごすことができた。
入島した翌日は、まずマングローブ林の中を歩いて散策した。マングローブ林の土壌が黒々としていたことがとても印象的であった。枯葉や動物の死骸、排泄物等が堆積した土壌有機物によるものさうだ。ぬかるんだ地面を慎重に歩いていくと、微生物による分解で発生した独特の硫黄臭があたり一面に漂っていた。マングローブ林を実際に歩いたのは初めてであったため、五感を通して新鮮な体験ができた。マレーシアなど、大陸のマングローブ林はよりぬかるみが激しく、人間が歩くのは難しいとのことだった。そのような違いも実際に自分の足で歩くことで知ることができるものであろう。その後、カヤッキング、浦内川クルーズを行い、川からのマングローブ林や様々な動植物を観察することができた。
三日目はサンゴ礁に関する講義と、シュノーケリングによるサンゴの観察であった。この日も天気はすぐれなかったが、海の温度は温かく、また海中は美しかった。これほど大規模なサンゴを実際に見たのは初めてであり、大変熱中して観察を行った。サンゴを利用する海生生物たちや、ウミヘビも観察することができ、悪天候も気にせず楽しむことができた。しかし、海面に近いサンゴの多くが白骨化していることが気になった。水温の上昇によるものさうということであったが、気候変動の影響がこのようなところに現れているのかと思うと、考えさせられるものがあった。
最終日はまずイリオモテヤマネコの研究者の方に講義を行ってもらい、その後カメラトラップの回収と点検、糞の採集と内容物の観察を行った。イリオモテヤマネコに装着した GPS ロガーによる行動範囲の観察や、交通事故にあう個体の季節変動や性差の比較など、興味深いお話を多くお聞きすることができた。今シーズンに取り付けたカメラトラップには残念ながらイリオモテヤマネコの姿をとらえることはできなかったが、その他の動物の種同定を行い、様々な動物が生息していることを実感することができた。糞内容物の分析では、鳥類や両生類、植物など多種多様な食物が確認され、興味深かった。西表島には草食動物が少なく、イリオモテヤマネコは両生類などを食べることで足りない栄養を補っているのだという。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

このような背景から、西表島では道路で車につぶされたカエルなどを食べようと出てきたヤマネコがさらに車にはねられるという、“Secondary road kill”が発生するのだと講義で教わった。交通事故を減らすためフェンスや地下道の導入が検討、実地されているそうだが、餌を求めてやってくる場合、道路に現れる野生動物の数は完全には無くせないと考える。またフェンスがあるからといってスピードを落とさず運転する人が増加することも懸念される。次に訪れた西表野生生物保護センターでも野生動物の交通事故に非常に注意を払っており、住民の方々に目撃情報などの情報提供を募り、マップを作成し安全運転のための注意喚起を行っていた。西表島をはじめとした八重山諸島では、今後エコツーリズムがますます盛んになっていくと考えられる。増えゆく観光客、そして住民と野生動物が共存していくためには、このような地道な注意喚起を重ね、一人一人が意識をして運転をしていくことが重要であると感じた。

短い日程ではあったが、自然豊かな西表島の貴重な生態系を学び、さらに各研究者、保護センターの方々の生態系保全への努力を垣間見ることができ、非常に有意義な実習であった。



図上：マングローブ林

図右：マングローブ林の土壌



図左：カヤッキングの様子



図右：シュノーケリングによるサンゴの観察



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



図左：カメラトラップの回収



図左：実験的に設置されたイリオモテヤマネコ防止用フェンス



図左：集合写真

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディング大学院プログラムの援助を受けて行いました。本実習のためにいろいろな手配をしてくださった皆様に深く感謝申し上げます。実習期間中、ご指導いただきました梶田教授、酒井教授、伊澤教授、成瀬准教授には大変感謝しております。また実習に参加されていたその他の先生方とセンターに滞在されていた方々、学生のみなさんにも大変感謝しております。